



本会では、9月1日(水)から10月13日(水)まで、県内7地区8会場で地区別組合代表者懇談会を開催し、組合の理事長など計156名が参加しました。

今月は、前月号に引き続き、9月22日以降に4会場で行われた懇談会で出された意見・要望の要旨をご紹介します。

各会場で出された主な意見・要望

【秋田会場・工業関係(9/22)】

- 国は建設用の資材として国産材の活用を掲げており、業界には追い風となっているが、北欧等を競争相手にしているため円高は非常に痛い。 <木材>
- 建築は、昨年度から介護施設等を中心にスプリンクラー設置等設備投資があり、だいぶ動きは出てきたが民間の競争は大変厳しい。 <建設>
- 県のリフォーム助成金は使い勝手も良く、業績の向上につながっている。秋田市にも同様の助成をお願いしたい。 <建設>
- 雇用を守るという観点から、地元企業の維持、育成につながる施策をお願いしたい。また、秋田市庁舎の建替えについては、地元業者が受注できるような設計をお願いしたい。 <管工事>
- 県外での売り込みを強化するため首都圏での利き酒も行っている。また、海外向けの出荷が伸びており、有望な市場であると認識している。「日本酒で乾杯」を全国統一キャンペーンにしており、皆さんにもご協力をお願いしたい。 <酒造>
- 東北は縫製業のレベルが高く、ものづくり拠点となっている。学校制服等は、県内企業への発注を要望したい。 <繊維>
- 業態的な特性もあり、分離分割発注は難しいという結論が県から出されている。下請けの仕事が100%であり、適正価格での発注を要望したい。 <基礎工事>



【秋田会場・商業関係(9/28)】

- 組合では、人材育成として、中小企業組合士資格の取得を奨励している。組合士がいる組合が県内には少ないので、増やしてもらいたい。 <卸売>
- 組合HPや組合活力向上事業等、中央会の事業を有効活用している。ネットからのアクセス数は着実に増加しており、今後は携帯からのアクセスにも対応できるようにしたい。 <自動車車体整備>
- 荒廃した休耕田を再生するため、県立大学と共同でバイオエネルギーとして菜の花畑からの搾油に取り組んでおり、高額な機械の導入も行っている。 <農業機械>
- エコポイント商品としての商品券の交換は、9月までで約2千件、1700万円ほどの売上を計上している。消費者へのサービスや利便性を追求しており、組合の将来の方向性について、県、市にも相談したい。 <商品券>
- 組合員の総意でアーケードを撤去するが、秋田の顔の商店街として融雪道の整備を、県に是非お願いしたい。 <商店街>
- 歩道での事故増加と街路樹の立ち枯れが課題で、街路樹については、整備を県や市に要望したい。 <商店街>

- 葬祭業者は、直接遺体に触れることが多く、感染症にかかる危険性も高い。一般的には個人情報ということもあり、死因となった病気の種類等を知ることが難しい。遺体を引き取る段階での情報開示を義務化してほしい。 <葬祭>
- 全国ネットワークで組合ブランドの化粧品（KIRYO）を立ち上げ、売上に非常に貢献している。また、店頭販売や技術向上など、中央会事業も有効活用している。 <化粧品>
- 後継者難や高齢化など課題は多いが、エコ等で今後の活路を見いだしたい。HPの活用について、中央会に教えを請いたい。

<自転車軽自動車>



#### 【能代会場（10/4）】

- 日本には起業が少なく、経営者も少なくなっている。個人保証をとるのは世界でも日本だけなので、個人保証が不要となる制度をお願いしたい。 <木材>
- フライアッシュコンクリートは、中央会の支援もあり能代山本地域における標準仕様となった。今後は秋田県全体で利用できるように進めていきたい。行政には、消波ブロック等、生コンの分離分割発注をお願いしたい。 <生コンクリート>
- 組合員が高齢化してきており、中央会には青年部の育成支援をお願いしたい。 <電気工事>
- 行政には、能代を木材の集散地として成り立つようにしてもらいたい。また、国は木材の自給率50%を目指しているが、画一的な施策にするのではなく、地域の実情に応じた具体的な施策となるようお願いしたい。 <木材>
- 2組合でのポイントカードシステム相互乗り入れや、満点カードによる公共料金等の支払いが可能になったことで、利用者のメリットが向上した。公共料金等の支払については、他県の組合と比較すると利用率が高い。

<ポイントカード>

- 郊外型大型店や産直の影響から売上は落ち込

んでいる。今後は産直との連携も視野に入れ、中央会に相談しながら進めていきたい。

<小売>

- 組合で、ごみの量を1/3程度にできる実験を行い能代市に提案した。実現に結びつけることで当組合が引き受ける委託料を増やし、雇用につなげたい。 <リサイクル>



#### 【大仙会場（10/13）】

- 米の個別補償政策は、にわか仕立ての感じが強い。余り米は隔離するなどの対策も必要。また、中央会には銀行とのつきあい方に関しても支援がほしい。 <米卸売>
- 秋田県官公需受注対策協議会にも加入したので、県や市からの受注も是非受けてほしい。 <電気工事>
- 来年7月でアナログテレビが終了になることから、巷では最も景気のいい業界と言われているが、それ以降の厳しい時代をどう対応して行けばいいかが課題である。アフターサービスも考えて、是非地元のお店で買ってほしい。 <家電>
- 中央会の補助事業により組合を活性化させている。組合員の資質向上にもつながっており、さらに員外工場との差別化を図って行きたい。 <自動車整備>
- 全国納豆鑑評会で県内2社が入賞する快挙を達成しており、檜山納豆のように能代市との連携による活性化を模索している事例も出てきた。また、大豆の安定供給をお願いしたく、農商工連携という流れから県やJAの間に中央会が入って調整していく役割を果たしてほしい。

<納豆>

